



鳥海山などの山では、神さまをまつる小さな「ほこら」が道の途中にいくつもあり、むかしは手を合わせておがみながら登ったそうです。

遊佐町の海辺に、同じようなほこらが残っています。海で魚をとって暮らしていた漁師の人たちは、このほこらに漁の安全と大漁を祈ったんでしょうね。





ほこらは、海に突き出した岩のてっぺんにあり、海の方は20mくらいのガケになっています。

写真で見るとステキな絶景だけど、ちょっとこわいですね。

このあたりは、近くに住む漁師の人たちにとって、今でも大切な漁場になっています。



この近くには、岩で囲まれて波が穏やかな、プールのような場所があります。

子どもの頃、おにぎり和水筒持って漁師さんの船で朝ここに降ろしてもらい、一日中のんびり遊んで夕方また拾ってもらったり、なんてことしてました。

波のない海面にシュノーケルつけてぷかぷか浮いて、いろんな魚やカニ・タコなどを、飽きもしないでぼーっと見ていたものでした。

いつまでもいつまでも、こんなのんびりした時間をすごしていたいなあ。

そんなことを、ついつい私もほこらにお願いしてみたくくなります。

